

綾町埋蔵文化財調査報告書第4集

綾町内遺跡Ⅱ

2002. 3

宮崎県綾町教育委員会

綾町内遺跡Ⅱ

2002. 3

宮崎県綾町教育委員会

序 文

綾町は宮崎県のほぼ中央部に位置しており、照葉樹林が生い茂り、滾々と湧き水が湧き出る自然の豊かな町であります。古代からの歴史を語る文化財は、町民の財産でもあり、この文化財を保護しながら整備を図り、歴史の謎を解く資料とし後世に残すことは、現代に生きる我々に課せられた責務であります。

近年、本町においても各種の開発事業を実施するのに伴い、開発と保護の調整をいかに図るかが重要な課題となっております。綾町教育委員会では、これらに対応するため平成7・8年度に実施した町内遺跡詳細分布調査の結果をもとに、開発に伴う遺跡の確認を目的とした町内遺跡発掘調査事業を実施しております。

本書は平成13年度に実施した調査の報告であります。本書が文化財保護への理解に役立つとともに、生涯学習・学校教育等の場で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた諸関係機関や地権者の方々に厚くお礼申しあげます。

平成14年 3月

綾町教育委員会
教育長 森山 喜代香

例　　言

1. 本書は、綾町教育委員会が文化庁・宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した町内遺跡発掘調査の報告書である。

2. 調査は下記の体制でおこなった。

調査主体 綾町教育委員会

教　育　長	森　山　喜代香
社会教育課長	玉　田　清　人
社会教育係長	蓮　子　浩　一
庶務担当	社会教育係　井　上　隆　広
調査担当	社会教育係　井　上　隆　広
調査作業員	綾町シルバー人材センター
整理作業員	福　岡　きみよ

3. 現地調査は、井上が行なった。

4. 本書の編集執筆は井上が行なった。

5. 本書で使用した方位は、全て磁北である。

6. 調査の記録類、出土遺物などは全て綾町教育委員会で保管している。

目 次

本文目次

I 指定文化財一覧	9
II はじめに	
1. 綾町の環境	13
a 地形的環境	13
b 歴史的環境	13
2. 調査の目的	15
a 今年の開発事業について	15
III 試掘調査	
1. 小田爪・久木野々線道路拡張工事に伴う試掘調査（久木野々地区）	19
2. 個人住宅宅地造成工事に伴う試掘調査（古屋地区）	20
3. 公共下水道処理施設建設に伴う試掘調査（昭和地区）	21
4. 九州電力小丸川幹線50万ボルト特別高圧送電線 鉄塔建設事業に伴う試掘調査（椎屋地区ほか）	24

挿図目次

第1図 綾町内埋蔵文化財包蔵地・文化財位置図	5
第2図 久木野々地区調査地位置図	19
第3図 古屋地区調査地位置図	20
第4図 昭和地区調査地位置図	22
第5図 九電鉄塔予定地調査位置図	23
第6図 №75鉄塔調査地内トレンチ配置図	24
第7図 №76鉄塔調査地内トレンチ配置図	25
第8図 №84鉄塔調査地内トレンチ配置図	26
第9図 №87鉄塔調査地内トレンチ配置図	27

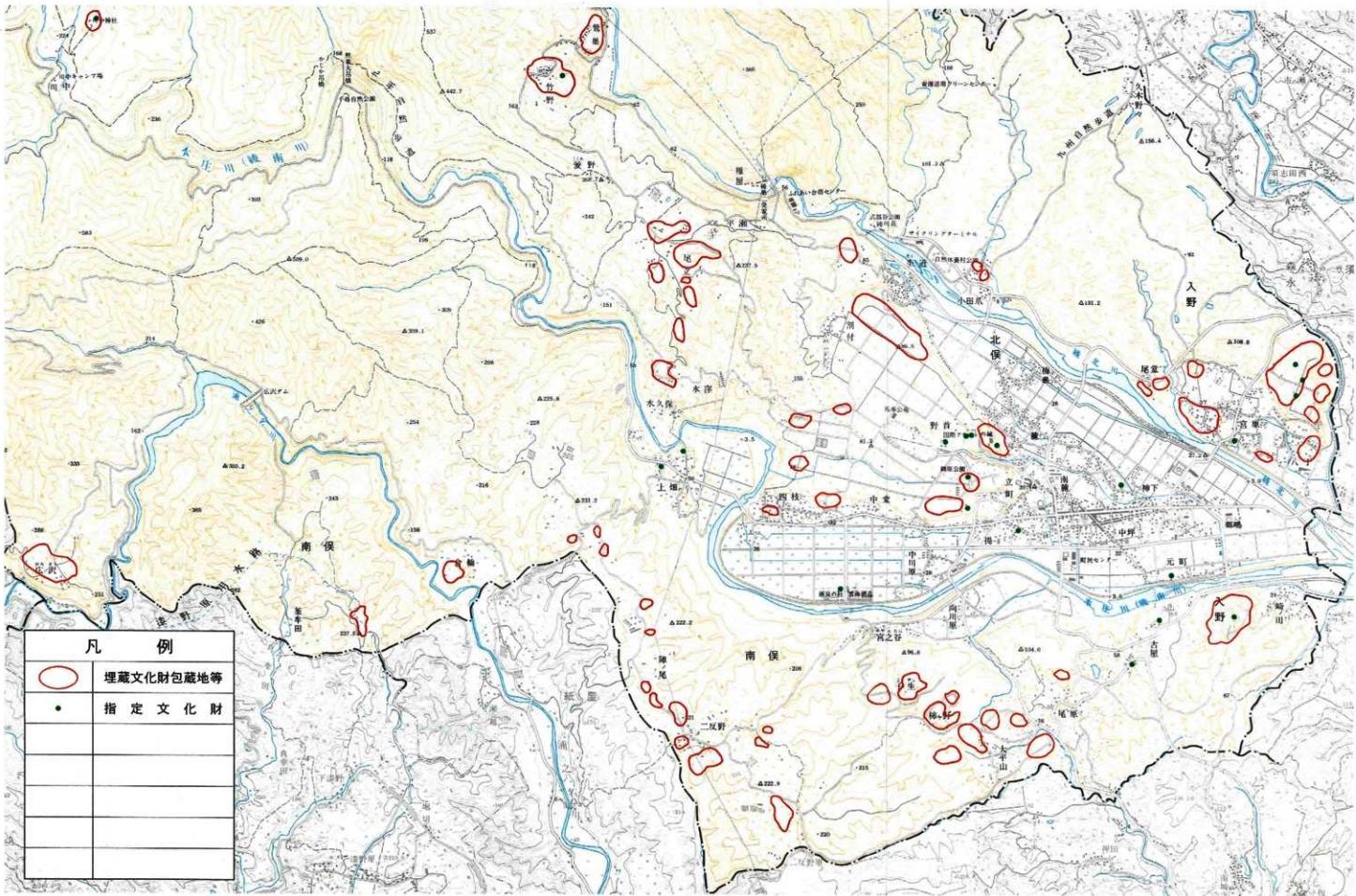
図版目次

図版1 小田爪地区貝の化石層	13
図版2 尾立遺跡遠景	14
図版3 綾古墳（首塚）	14
図版4 亜椰駅跡	14

図版 5	垂水城跡遠景	14
図版 6	久木野々地区調査地遠景	19
図版 7	久木野々地区トレンチ	19
図版 8	久木野々地区トレンチ内土層断面	20
図版 9	久木野々地区調査作業状況	20
図版10	古屋地区調査地遠景	21
図版11	古屋地区トレンチ	21
図版12	古屋地区トレンチ内搅乱土層	21
図版13	古屋地区調査作業状況	21
図版14	昭和地区調査地遠景	22
図版15	昭和地区トレンチ	22
図版16	No.75鉄塔調査地遠景	24
図版17	No.75鉄塔調査地内風景	24
図版18	No.75調査地第3トレンチ	25
図版19	第3トレンチ内炭化物等アップ	25
図版20	第3トレンチ内出土遺物	25
図版21	第3トレンチ内出土小型丸底壺	25
図版22	No.76鉄塔調査地遠景	26
図版23	No.76鉄塔調査地内風景	26
図版24	No.76鉄塔調査地トレンチ1	26
図版25	No.76鉄塔調査地トレンチ2	26
図版26	No.84鉄塔調査地遠景	27
図版27	No.84鉄塔調査地内風景	27
図版28	No.84鉄塔調査地トレンチ	27
図版29	No.84鉄塔調査地トレンチ内土層断面	27
図版30	No.87鉄塔調査地遠景	28
図版31	No.87鉄塔調査地内風景	28
図版32	No.87鉄塔調査地トレンチ	28
図版33	No.87鉄塔調査地トレンチ内土層断面	28

表 目 次

表 1	町内指定文化財一覧表	9
表 2	平成13年度試掘調査一覧表	15
表 3	報告書登録抄	29



第1図 綾町内埋蔵文化財包蔵地・文化財位置図

I 指定文化財一覧

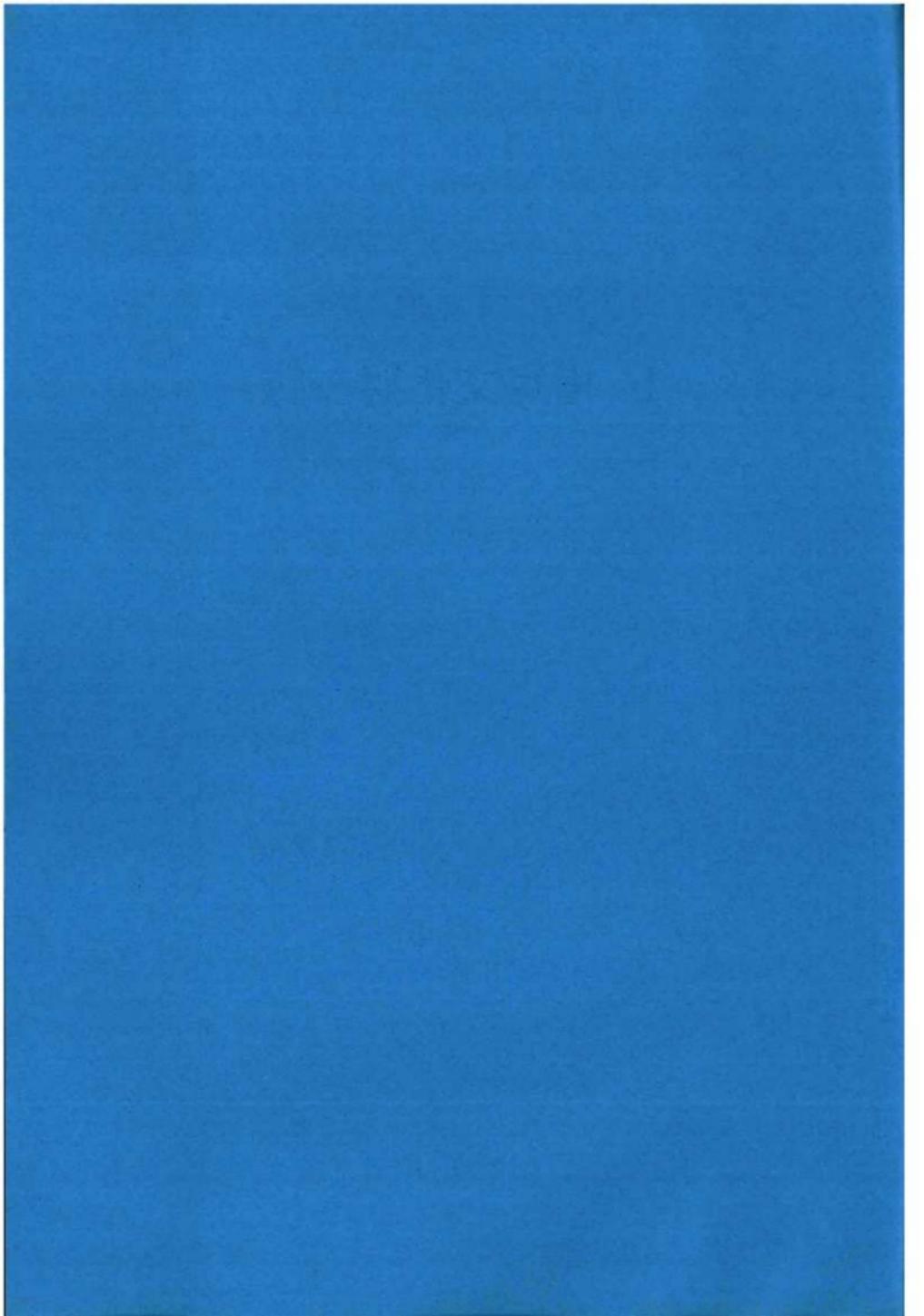


表1 指定文化財一覧

地図番号	文化財の名称	指定	種別	指定年月日
1	川中神社堂宇	町	有形	昭和55年10月1日
2	入野神社社殿	町	有形	昭和55年10月1日
3	黒葛原武家門	町	有形	昭和55年10月1日
4	綾城跡	町	史跡	昭和55年10月1日
5	垂水城跡	町	史跡	昭和55年10月1日
6	内屋敷城跡	町	史跡	昭和55年10月1日
7	肥田木城跡	町	史跡	昭和55年10月1日
8	亜椰駅跡	町	史跡	昭和55年10月1日
9	田村一三宅跡	町	史跡	昭和55年10月1日
10	竹野のホルトノキ	国	天然記念物	昭和52年2月17日
11	綾のイチイガシ	町	天然記念物	昭和60年1月4日
12	綾神社クスノキ	町	天然記念物	昭和55年10月1日
13	明見神社イチイガシ	町	天然記念物	昭和55年10月1日
14	刀工田中國廣宅跡	県	史跡	昭和8年12月5日
15	綾町古墳(王の塚)	県	史跡	昭和8年12月5日
16	綾町古墳(スミ床)	県	史跡	昭和8年12月5日
17	綾町古墳(四反田)	県	史跡	昭和8年12月5日
18	綾町古墳(首塚)	県	史跡	昭和8年12月5日
19	旧清水家住宅	町	有形	平成4年5月19日
20	垂水弁阿闍梨の墓	町	有形	平成8年10月29日
21	野首の古井戸	町	史跡	昭和61年8月5日

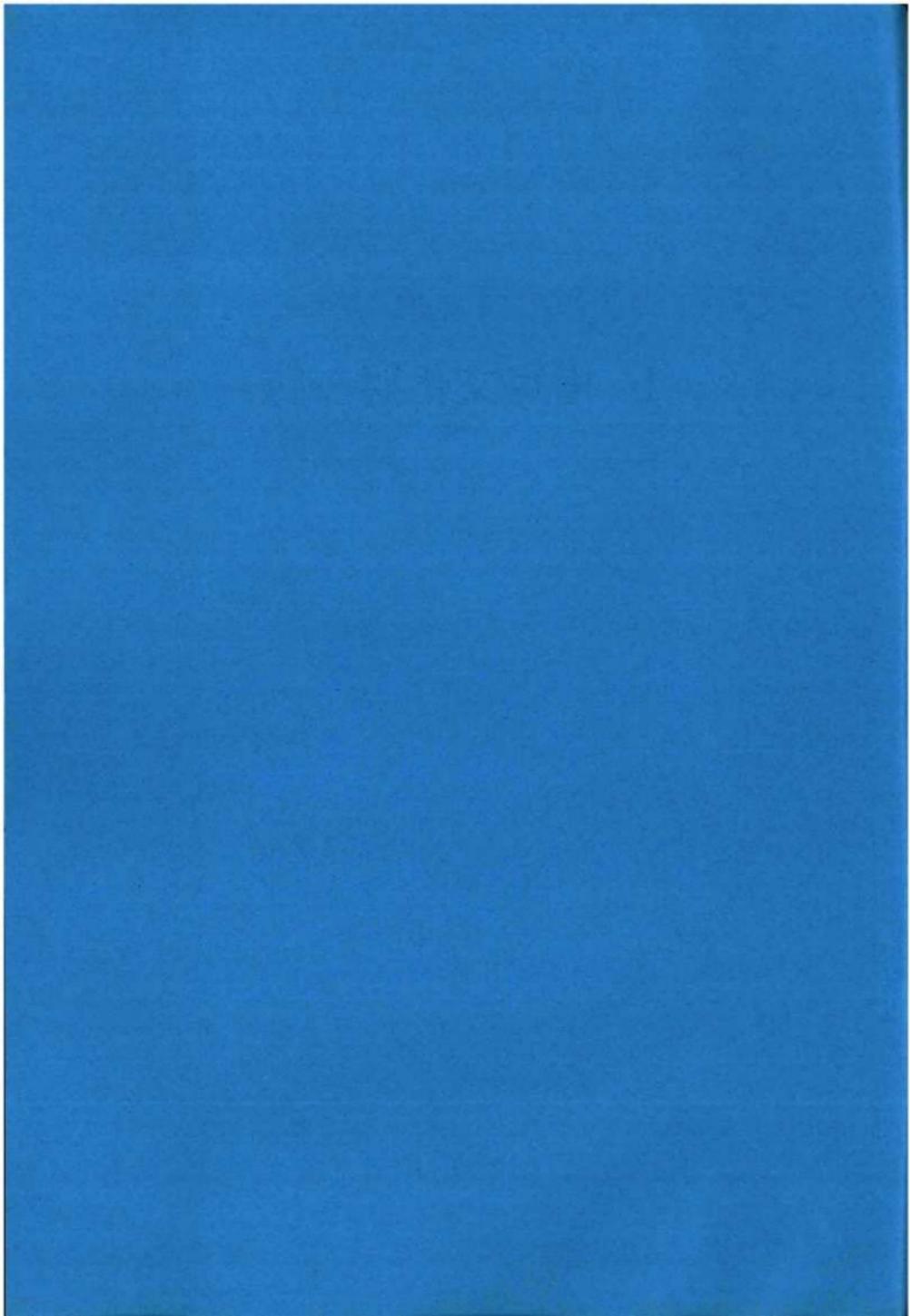
II はじめに

1 綾町の環境

- a 地形的環境
- b 歴史的環境

2 調査の目的

- a 綾町の今年度の開発について



1. 綾町の環境

a. 地形的環境

綾町の地形は大きく見ると、東と北隣は国富町の段丘地形及び山岳稜線で境されている。南は高岡町と接し、標高200mの丘陵地形が広がる。西は須木村と山岳の稜線で接している。町の80%は山林が占め、綾北川・南川に囲まれた地域には段丘地形と扇状地が広がっている。

一方地質を見ると、山岳地形を構成するのは古第三紀の日向層群（四十万累層群）である。この地層は砂岩層、泥岩層、砂岩泥岩互層からなり、NE-SW方向の走向を示している。段丘地形を構成するものは新第三紀中新世の宮崎層群である。この地層は基底礫岩から始まり、砂岩層、泥岩層、砂岩泥岩互層から成る。宮崎層群の地層は、日向層群に比べて固結度が弱いため侵食されやすく、そのため平坦な段丘地形がよく発達している。宮崎層群は日向層群を傾斜不整合に覆い、砂岩層には貝の化石を多く含んでおり、町内の至るところで貝の化石が発見されている。二反野の丘陵には、高位段丘礫層が堆積している。錦原付近の段丘は、中位段丘礫層から成る。概ね町内の地表付近にはアワオコシ、小林軽石、アカホヤなどのテフラが層をなして降下堆積している。



図版1 小田爪地区貝の化石層

b. 歴史的環境

町面積の80%を森林が占める綾町は、大淀川水系の綾南川・綾北川の合流点の扇状地に位置しており、集落は平坦地にある中心地区と、その周辺丘陵地及び山間高台地に点在している。

綾町の遺跡は、現在のところ平成7・8年度の詳細分布調査で約60箇所が確認されており、それらの遺跡のほとんどは、町中央部を流れている綾南川の南岸、綾北川の北岸、そしてその両河川に挟まれた中間丘陵地に分布している。

旧石器時代の遺跡は、現在のところ見つかっていない。しかしながら、本町との町境に所在する高岡町向屋敷遺跡では、集石構造と共にナイフ形石器やスクレイパーが見つかっており綾町内でも遺跡が発見される可能性があるといえる。

縄文時代の遺跡は、平坦地には見られず、そのほとんどが丘陵地に分布している。縄文時代の表採資料としては、早期～後期のものが多く見つかっている。特に綾町で県内の縄文後期の代表的な遺跡として挙げられるものが、中央丘陵地に所在する尾立遺跡である。この遺跡は、大正7年京都大学の濱田耕作博士によって調査され、その後も何度も宮崎考古学会や宮崎大学等により調査がなされている。主な遺物は、縄文後期土器のほか磨製石斧、石鎌、石鏃などが出土している。また早期の遺物では押型文土器や貝殻文系の土器の破片が見つかっている。

弥生時代の遺跡は現在のところ見つかっていないが、詳細分布調査において高杯や壺などの破片が、

割付地区周辺などにおいて見つかっている。

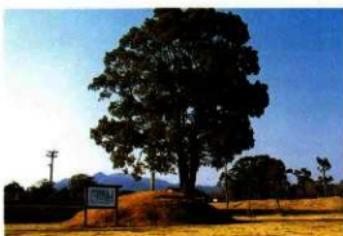
古墳時代の遺跡は、宮原台地や錦原台地にその存在が確認されている。特に宮原地区では県の文化財に指定されている綾町古墳が3基所在している。また、四反田古墳の付近では昭和43年の畠地改良事業により地下式横穴が1基発見され副葬品として土師器・須恵器計7点や人骨が出土した。この地下式横穴の築造の時期については、須恵器の形式などから古墳時代後期と考えられている。古墳の所在する台地の一級下の宮原台地には、古墳時代の土師器や須恵器が多量に表採されており、集落の存在を予想させている。一方、錦原台地には古墳1基が所在している。その付近の内屋敷遺跡では、天井部の崩落により地下式横穴が1基発見され、県の文化課によって昭和56年調査がなされている。一方、尾立遺跡の附近の中迫遺跡では、ゴボウトレレンチャーの掘削により陥没が起こり、県文化課によって発掘調査がなされ3基の地下式横穴が見つかっている。この調査で直刀、鉄斧、イモガイ製貝輪、平玉等が出土し、また遺存状況の悪い女性の人骨も出土している。この遺跡で2基の竪坑の切りあいがみられたことは県内でもあまり例がなく特徴的である。中迫地下式横穴墓群の営まれた時期については出土遺物の構成などから5世紀末から6世紀前半が考えられている。

古代の遺跡については調査がなされていないが文献等によると「垂桜駅」の存在が予想される。

中世については、南北朝期を経て綾氏、伊東氏、島津氏の支配下にあった「綾城」の存在がある。綾城は伊東氏時代には、48城の一つとなり山東の拠点として重要な役割を果たした。このほかにも、町内には山城として垂水城跡、そ



図版2 尾立遺跡遠景



図版3 綾古墳(首塚)



図版4 垂桜駅跡



図版5 垂水城跡遠景

のほかの城跡として肥田木城、内屋敷城などが残っている。特に垂水城、内屋敷城については、現在でも堀や土塁が良好に残っている。

参考文献

- 綾町 1979 『綾町郷土誌』
石川恒太郎 1969 「東諸県郡綾町地下式古墳調査報告」『宮崎県埋蔵文化財調査報告書』
第13集 宮崎県教育委員会
面高 哲郎 1996 「内屋敷地下式横穴群」『宮崎県史 資料編 考古2』宮崎県
高岡町教育委員会 1996 『向屋敷遺跡』高岡町埋蔵文化財調査報告書第10集
日高 孝治 1993 「四反田地下式横穴」『宮崎県史 資料編 考古2』宮崎県

2. 調査の目的

a. 綾町の今年度の開発について

綾町は、宮崎市街地より離れていることもあり大規模な開発に縁遠いところである。しかしながら、開発が全くなかったわけではなく、確実に町内の遺跡は破壊されてきたといえる。

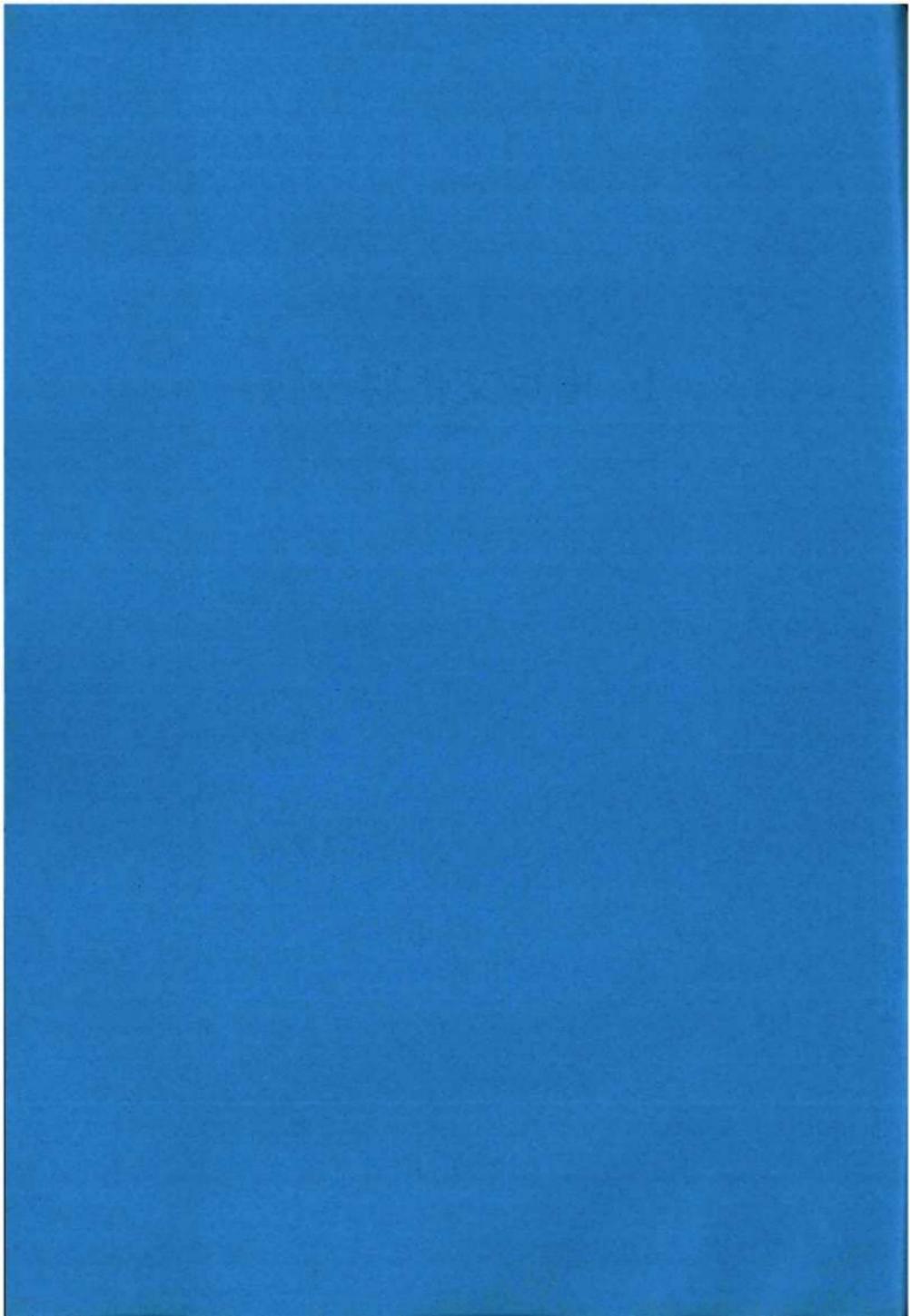
今年度の開発対応の調査は、民間1、個人1、公共事業2であった。それらについては、教育委員会が主となり、トレンチ法による試掘調査を行った。しかしながら、これらについては照会があがってきたものだけの対応であり、その他の民間・個人開発等に対しては、十分に対応がなされているとはいえない。今後も、発掘調査が事業者に課せられた義務であることを周知徹底させていかなければならない。

表2 平成13年度試掘調査一覧表

地区名	調査期間	原因	開発主体	成果
1 久木野々地区	H13. 9. 30	道路拡張工事	県	ピットなど
2 古屋地区	H13. 11. 27	宅地造成工事	個人	遺構・遺物無し
3 椎屋地区ほか	H14. 1. 9~23	鉄塔建設	民間	土器(古墳時代)等
4 昭和地区	H14. 3. 22~27	下水処理場建設	町	遺構・遺物無し

III 試掘調査

- 1 小田爪・久木野々線道路拡張工事に伴う試掘調査
(久木野々地区)
- 2 個人住宅宅地造成工事に伴う試掘調査
(古屋地区)
- 3 公共下水道処理施設建設に伴う試掘調査
(昭和地区)
- 4 九州電力小丸川幹線50万ボルト特別高圧送電線鉄塔
建設事業に伴う試掘調査
(椎屋地区ほか)



1 小田爪・久木野々線道路拡張工事に伴う試掘調査（久木野々地区）

久木野々地区は綾町の北、国富町との境に位置する地区である。標高は約150mほどで、北西約1キロのところには、法華岳薬師寺が所在する。

町では、この地区に道路拡張工事を計画した。計画地周辺では、埋蔵文化財包蔵地に指定されてはいないが土器の破片等を表採できる場所もあり、試掘調査を行うこととなった。試掘調査は、1日で行い合計9本のトレンチを入れた。どのトレンチにおいてもゴボウのトレンチャーにより小林軽石層下まで掘削を受けており、良好な地層は見つからなかった。また、アカホヤ層も第6トレンチ以外では検出されず、アカホヤ層上部は耕作等で、そのほとんどが削平を受けているようであった。遺構については、第1トレンチ内から用途不明のピットが1基みつかった。また、遺物については第9トレンチ内で耕作土中から縄文土器の破片が一点みつかっただけで、他はまったく見つからなかった。



第2図 久木野々地区調査地位置図



図版6 久木野々地区調査地遠景



図版7 久木野々地区トレンチ



図版 8 久木野々地区トレンチ内土層断面



図版 9 久木野々地区調査作業状況

2 個人住宅宅地造成工事に伴う試掘調査（古屋地区）

古屋地区は、綾南川の南に位置する地区である。この地区には県指定史跡刀工田中國廣宅跡が所在し、その周辺からは鉄をうったときにでる金くそと呼ばれる鉄屑が発見される。

十月下旬、この地区の方から、宅地造成に伴う文化財所在の照会をうけた。造成工事予定地は埋蔵文化財の包蔵地には該当しない所ではあったが、史跡の近隣地ということで試掘調査を行った。試掘調査は、一日行い合計 7 本のトレンチを入れた。工事予定地の地層は、上層 30cm ぐらいまでは、埋め立てた土であり、その下はこの地域独特の暗青灰色粘土層であった。第 4 トレンチにて人為的な搅乱層が見つかったが、現代のものであった。その他の遺物や遺構などは、発見されなかった。



第3図 古屋地区調査位置図



図版10 古屋地区調査地遠景



図版11 古屋地区トレンチ



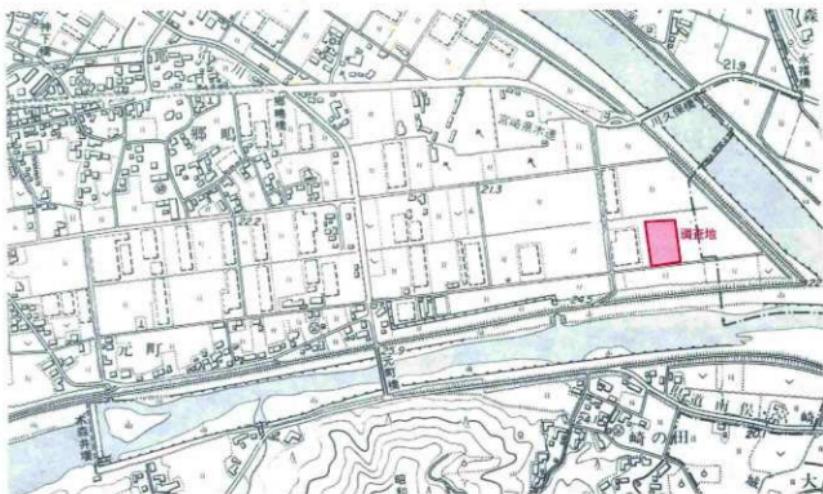
図版12 古屋地区トレンチ内攢乱土層



図版13 古屋地区調査作業状況

3 公共下水道処理施設建設に伴う試掘調査（昭和地区）

町では、綾北川と綾南川の合流点の字水洗に敷地面積約6,300m²もの広大な公共下水道処理施設建設の計画を立てた。教育委員会では、この計画を受け協議した結果、3日間の日程で試掘調査を行うこととなった。今回は、敷地内が広大なため重機によって掘削をすることとなった。3日間で合計30本のトレンチを入れた。どのトレンチも1mほど掘った所で疊層にあたり、遺構・遺物ともに見つからなかった。



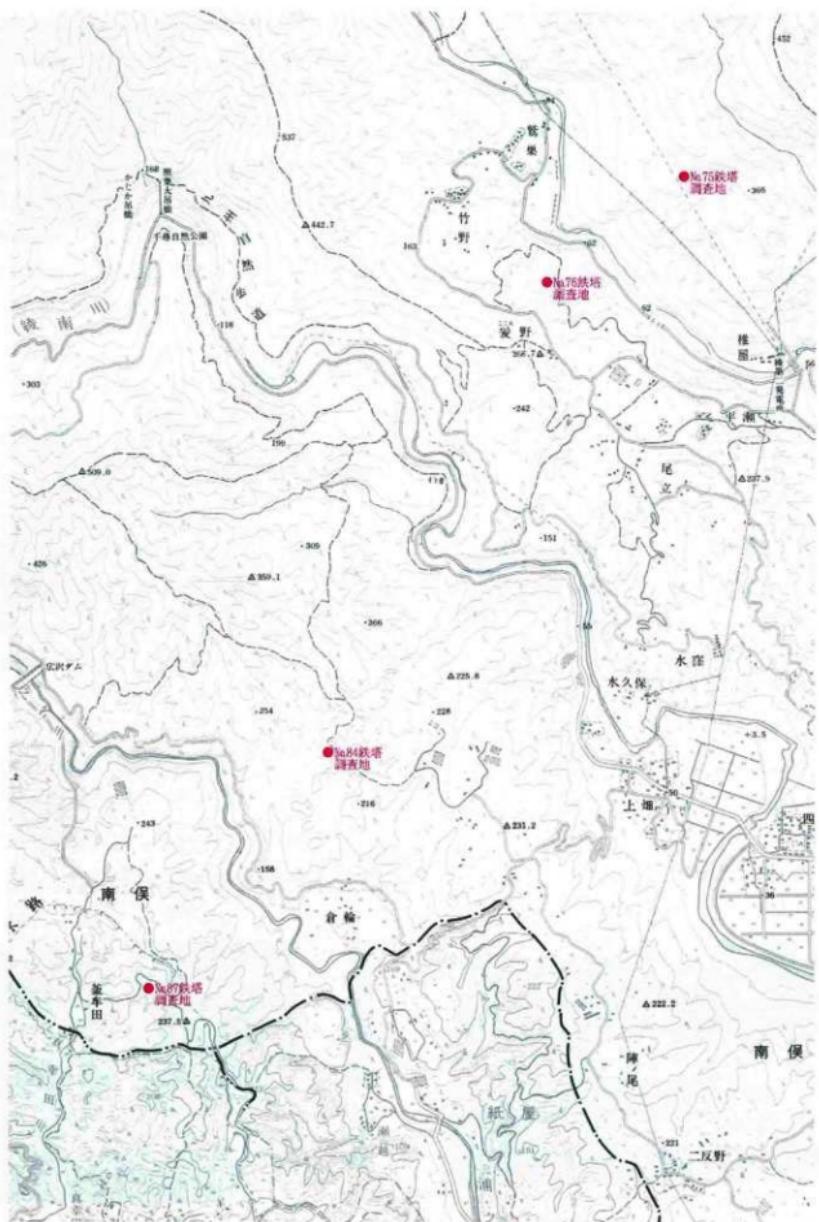
第4図 昭和地区調査地位置図



図版14 昭和地区調査地遠景



図版15 昭和地区トレンチ



第5図 九電鉄塔予定地調査位置図

4 九州電力小丸川幹線50万ボルト特別高圧送電線鉄塔建設事業に伴う試掘調査

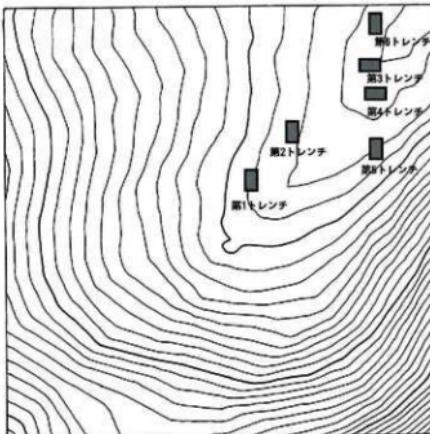
(椎屋地区ほか)

九州電力小丸川幹線50万ボルト特別高圧送電線鉄塔工事は、木城町小丸川発電所を起点として高城町宮崎変電所までのこう長46kmの規模で計画されている。綾町においては、途中椎屋（しいや）、愛野（ここんの）、倉輪（くらわ）、金牟田（かまむた）を通り野尻町、高岡町、高城町へと通じていく。この間に綾町では、合計16基の鉄塔が建設される予定である。今回の調査は、工事に伴う埋蔵文化財の有無を確認するための調査である。

今回の調査では工事予定敷地内が斜面の場所は対象外とし、主に埋蔵文化財が所在する可能性が強い地点を選定した結果、4ヵ所の調査を行なうこととなった。以下、それぞれの調査地について結果を報告する。

◎No.75鉄塔建設予定地調査について

No.75鉄塔建設予定地は綾北川の北岸にあり、綾第二発電所の北西約1.2km、標高320mほどの場所である。ここでは合計6本のトレンチを入れたが、工事敷地内の北東方向を中心4つのトレンチから土器が出土した。特に第3トレンチ内からは、古墳時代のものと思われるタタキ目の入った壺の胴部やほぼ完形の小型丸底壺が出土した。また、炭化物や赤色化した土などもみつかったが、遺構自体は検出できなかった。



第6図 No.75鉄塔調査地内トレンチ配置図



図版16 No.75鉄塔調査地遠景



図版17 No.75鉄塔調査地内風景



図版18 №.75調査地第3トレンチ



図版19 第3トレンチ内炭化物等アップ



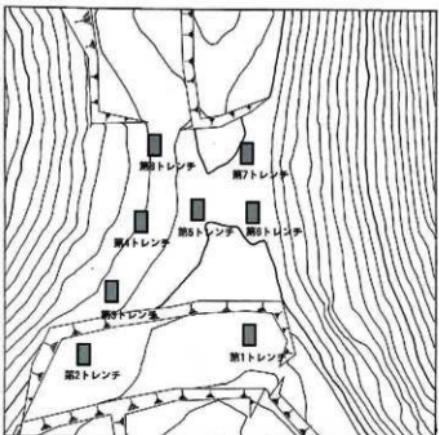
図版20 第3トレンチ内出土遺物



図版21 第3トレンチ内出土小型丸底壺

◎№.76鉄塔建設予定地調査について

№.76鉄塔建設予定地は、№.75鉄塔建設予定地のちょうど川を挟んだ対岸に所在する。標高は210~240mのところである。ここでは、以前段々畑による畑作が行なわれていたということで、ある程度平らな土地であった。ここでは、工事予定敷地内に合計8本のトレンチを入れたがどのトレンチからも遺構、遺物等の発見はなかった。



第7図 №.76鉄塔調査地内トレンチ配置図



図版22 No.76鉄塔調査地遠景



図版23 No.76鉄塔調査地内風景



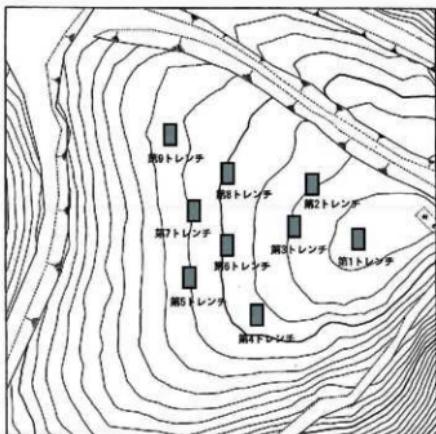
図版24 No.76鉄塔調査地トレンチ1



図版25 No.76鉄塔調査地トレンチ2

◎No.84鉄塔建設予定地調査について

No.84鉄塔建設予定地は、陣の尾集落の北西に位置し、標高200mほどの場所である。ここでは、合計9本のトレンチを入れた。敷地内の東側には山神の小さな祠があり、地形的に見ても何らかの遺構が確認される可能性が考えられたが、遺構、遺物ともに見つからなかった。



第8図 No.84鉄塔調査地内トレンチ配置図



図版26 №84鉄塔調査地遠景



図版27 №84鉄塔調査地内風景



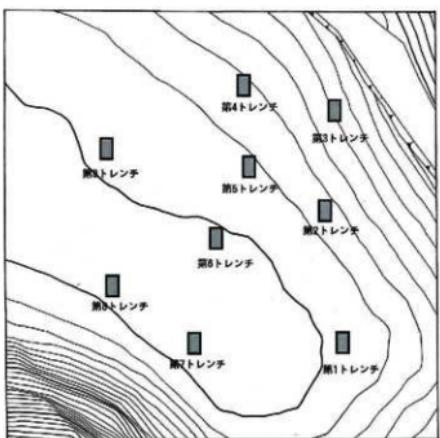
図版28 №84鉄塔調査地トレンチ



図版29 №84鉄塔調査地トレンチ内土層断面

◎№87鉄塔建設予定地調査について

№87鉄塔建設予定地は埋蔵文化財包蔵地である金牟田遺跡の西150mのところに位置し、標高230mほどの場所である。ここでは、敷地内に合計9本のトレンチを入れた。金牟田遺跡の近くであり地形的に見ても遺跡の存在が考えられる場所であったが、遺構は検出されなかった。また、遺物については、第3トレンチで縄文前期の押型文の土器の破片が一点出土しただけであった。



第9図 №87鉄塔調査地内トレンチ配置図



図版30 №87鉄塔調査地遠景



図版31 №87鉄塔調査地内風景



図版32 №87鉄塔調査地 トレンチ



図版33 №87鉄塔調査地 トレンチ内土層断面

表3 報告書登録抄

フ リ ガ ナ	アヤチヨウナナイセキ
書 名	綾町内遺跡Ⅱ
シリーズ名	綾町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第4集
編集者名	井上隆広
発行機関	宮崎県綾町教育委員会
所在地	宮崎県東諸県郡綾町大字南俣546-1
発行年月日	2002.3



